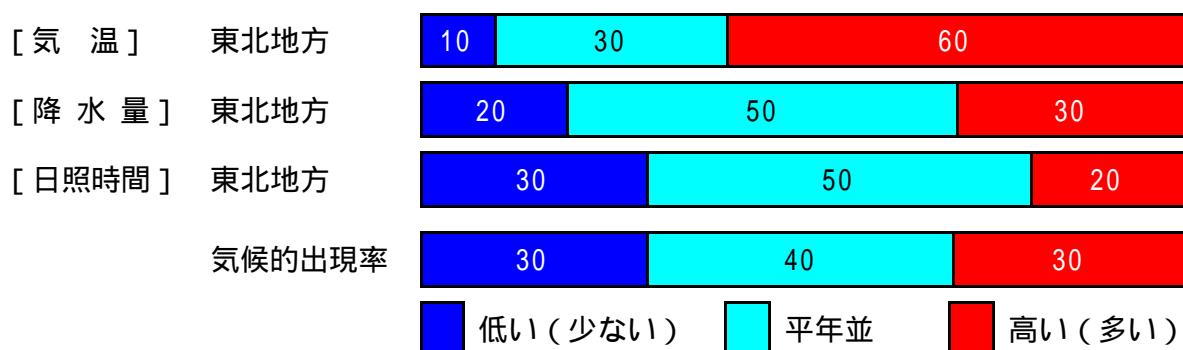


# 東北地方 1か月予報の解説（予報期間：9月11日～10月10日）

平成11年9月10日 仙台管区気象台

## 1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



[気温]: 東北地方は「高い」の可能性が大きく、その確率は60%です。次に大きい確率は「平年並」で30%です。「低い」の確率は10%と小さい。

[降水量]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「多い」で30%です。「少ない」の確率は20%と小さい。

[日照時間]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「少ない」で30%です。「多い」の確率は20%と小さい。

## 2. 予想される天候の特徴

（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

### 向こう1か月

東北地方は、天気は周期的に変化するでしょう。

この期間の平均気温は高い見込みです。

平年の晴れ日数は約14日です。

### 各予報期間の天候の特徴

1週目…………… (9月11日～9月17日) 向こう1週間は、天気は周期的に変わり、気圧の谷が通る11～12日と期間の後半に雨の降る所があるでしょう。

平均気温は高い見込みです。

平年の晴れ日数は約3日です。

なお、詳細は週間天気予報を参照して下さい。

2週目…………… (9月18日～9月24日) 天気は周期的に変化するでしょう。

平均気温は高い見込みです。

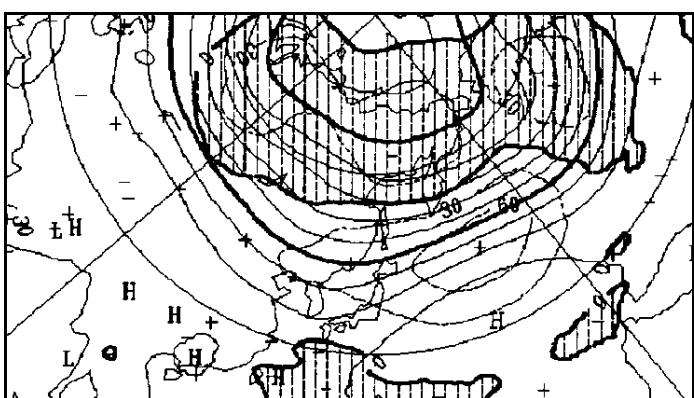
平年の晴れ日数は約4日です。

3～4週目…………… (9月25日～10月8日) 天気は周期的に変化するでしょう。

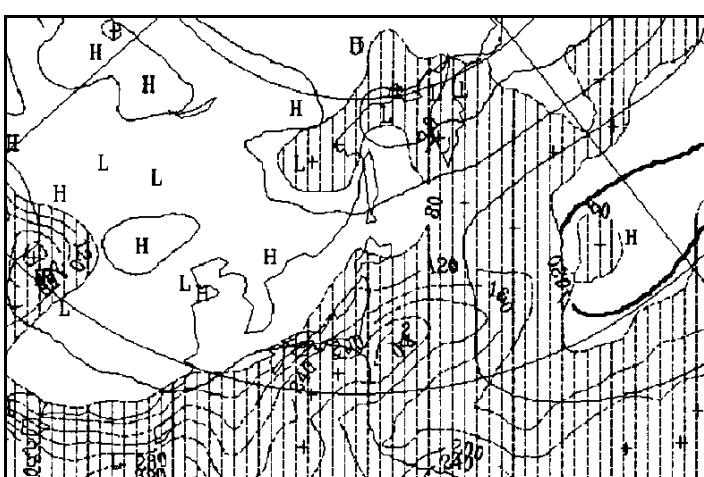
平均気温は高い見込みです。

平年の晴れ日数は約7日です。

## 予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



月平均の 500hPa 高度・偏差  
(等高度 : 60m 毎、偏差 : 30m 毎、陰影部 : 負偏差)



月平均の地上気圧と降水量  
(等圧線 : 4hPa 毎、降水量 : 40mm 毎、陰影部 : 80mm 以上)

### ・ 500hPa 高度・偏差

月平均でみると、日本付近は日本の東海上を中心とした正偏差に広く覆われる。また、日本の南東海上にある高気圧の勢力は平年より強い。流れはゾーナル<sup>注1</sup>だが、西谷<sup>注2</sup>傾向を示す。

このため、天気は周期的に変化するが、寒気の南下は弱く、気温は高めに経過しやすい。

**注1) ゾーナル**：偏西風の南北の蛇行が小さい状態。低気圧や高気圧が順調に東進し、天気は周期的に変化しやすい。

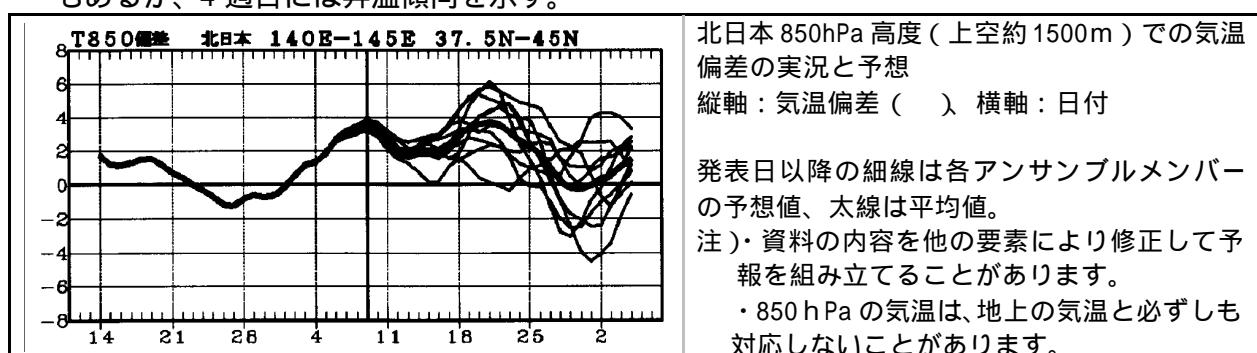
**注2) 西谷**：上空で日本の西側が気圧の谷となり、南から暖かく湿った空気が入りやすい。

### ・ 地上気圧と降水量

月平均でみると、降水域は日本付近に広がり、本州南岸には秋雨前線によるものと思われるまとまった降水域が予想される。各週（図略）共、地上気圧の配置や降水量の分布は月平均と同様のパターンで、大きな変化はみられない。

## 3 . 北日本 850hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温は、アンサンブルメンバーの平均でみると、平年より高めに推移することが予想される。3~4週目はメンバーのバラツキが大きく、3週目は平年を下回るメンバーもあるが、4週目には昇温傾向を示す。

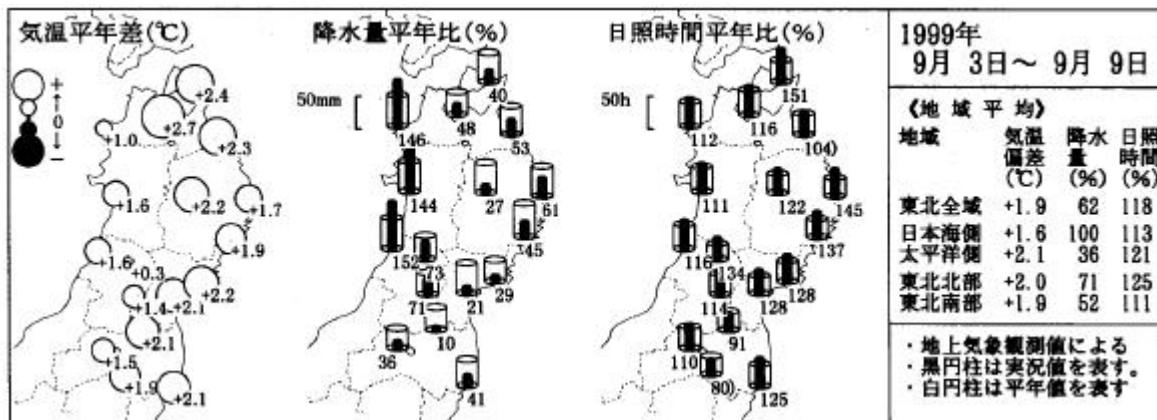


注：1か月予報では、よく似た初期値から出発した10個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

#### 4. 最近1週間(9月3日~9月9日)の天候の経過

この期間、天気は周期的に変化した。期間の中頃は、前線や低気圧の影響をうけ曇りや雨となったが、期間の初めや期末には高気圧に覆われ晴れた。

平均気温は東北地方で偏差が+1.9と平年より高かった。降水量は東北日本海側で平年比100%だったが、東北太平洋側では平年比36%と平年を下回った。日照時間は東北地方で平年比118%と平年を上回った。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)